

<b>■研究プロジェクト名</b>			
日本大学におけるeラーニングの戦略的活用の研究 —高大連携,入学前教育,学部教育そして大学院教育等におけるeラーニング導入の必要性とパイロットプログラムによる実証的研究—			
<b>【研究の特色・ポイント】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>●先行して実施されている他大学の大学教育におけるeラーニングの活用状況の調査と日本大学としてのeラーニング戦略的な活用及び展開の研究</li> <li>●入学前教育や学部教育などで使用できるeラーニングのコンテンツ開発とeラーニングの科目適応性などの調査</li> <li>●eラーニングを実施するために重要な役割を果たす、LMS(学修管理システム)の調査と選定</li> <li>●入学前教育を利用したeラーニングの実証実験と全学的展開に向けたデータ管理と課題の抽出</li> </ul>			
<b>【研究の背景】</b>			
ICT技術の発展に伴い、国内外の大学においては大学教育の中にICT技術を取り入れ始め、大学教育の各種ステージにおいてeラーニングが実施され、すでに一定の評価が得られているが、日本大学ではその導入が通信教育部などの一部の学部等にとどまっている。国内分散型のキャンパスを有する日本大学では、eラーニングの効果的な活用により、学部間の枠を超えた教育が実施可能となり、教育内容の質的向上にも貢献する可能性が高い。全国各地に存在する付属高校との高大連携教育の実施のためにも効果的であると考えられる。段階的にコンテンツを増やししながら、早期入学決定者を対象としたeラーニングを利用した入学前教育をパイロットプログラムとして実施し、日本大学全体へ展開する際の課題を探るとともに、LMS(学修管理システム)を通じたデータの管理などの蓄積を行うことが有益と考えられた。			
<b>【研究成果の概要】</b>			
研究期間	平成	24	～
			26 年度
			研究費総交付額
			36,553,000 円
<p>本実証的研究で実施された入学前教育には、最終的に3学部及び通信教育部が参加し、平成27年度には5学部に通教育部の早期入学決定者、約2350名が参加した。本研究の成果として、① eラーニングを利用した学習について受講者の満足度は高く、一定の学習効果も確認されたこと、②コンテンツ作成のための法的及び技術的な問題点が明らかにされたこと、③効果的な学修支援や教員による積極的なコンテンツ作成のためには、LMSの選定が重要であること、以上の3点が明らかにされ、その対応策についての検証が行われたことが大きな成果である(表1参照)。①については、受講生のアンケート結果(表2及び表3)から明らかになり、さらに商学部の教員による実証分析がそれを明らかにしている。②については、複数のコンテンツ制作の過程で著作権等の処理や、専門家の手を経ないコンテンツの簡易的な作成方法が課題となり、それへの効果的な対処方法が検討された。③については、LMSを通じて得られる受講履歴などのデータを十分に活用し、個別的な指導を取り入れることにより、学習効果が上がることが確認され、使い勝手の良いLMSの選定がeラーニングの導入の前提として不可欠であることが明らかとなった。</p>			
<b>【研究成果の意義・効果】</b>			
他大学と比較するとかなり遅れていると思われるeラーニングの導入及び展開であるが、本研究によって日本大学全体の教育へ展開する素地が整ったといえる。eラーニング展開に関して先行している他大学においても、人員、システム、組織体制において必ずしも十分なものとはなっておらず、今回の実証研究によって得られた成果を利用すれば、他大学との差は容易に解消できるものと思われる。本研究で得られた成果を下に、現在では複数の若手教員が積極的に授業に活用する目的でコンテンツ作成を行うなど、全学的な教育へのeラーニング導入の素地はできつつある。さらに、eラーニングはアクティブラーニングの展開のために重要な役割を果たすものであり、本研究の成果を全学で共有して活用することが今後の日本大学におけるeラーニング展開に際して重要であると思われる。			